

岡山陣屋(別名=椿陣屋, 吉良陣屋)(指定なし)

(西尾市吉良町大字岡山字殿町)(陣屋表門, 吉良義央公の馬上銅像)

天正年間に吉良義定が居館を築いたのが始まりとされる。

義定の母は松平広忠(徳川家康の父)の妹であり、家康にとっては従兄弟にあたる。その嫡男・義弥は1600年(慶長5年)に関ヶ原の戦いで東軍に属し領地を安堵されており、その跡は義冬が継ぎ、義冬の嫡男が吉良義央である。

「Wikipedia」による

築城年代は定かではないが吉良義定によって築かれた。永禄4年(1561年)徳川家康によって東条城の吉良義昭が追われ吉良氏は衰退するが、義昭の先代義安の子義定が徳川家康に取り立てられて江戸時代に旗本となった。

義定の子義弥は三千石をもって高家となり、義弥の孫が忠臣蔵で有名な吉良上野介義央である。

「城郭放浪記」による

【歴史】天正年間(1573～1592年)に築かれた吉良義定の居館とされる。1590年関東移封で一時廃され、1600年「関ヶ原の戦い」の後、その子義弥〔1586～1643年〕が高家筆頭の家格を付与され、3000石で陣屋を構えた。「高家」は江戸幕府に於ける儀式や典礼を司り、主に足利一門や著名な戦国大名の子孫のみが就ける役職である。義弥の長男義冬の代で4200石となり、1668年義冬没後は嫡男義央に継がれる。下って、1701年江戸城松之大廊下で赤穂藩主浅野内匠頭長矩に斬り付けられる事件が起こり、刀を抜かなかった吉良上野介〔義央〕はお咎め無し、背中と額を斬り付けた浅野内匠頭は切腹・改易となった。この結果を不服とする赤穂側は仇討ちを勧告。義央は江戸の屋敷を呉服橋内から本所へ映し、1702年家督を義周に譲って隠居していたが、1703年大石内蔵助良雄以下赤穂浪士47名が吉良邸へ討ち入り、吉良側は義央・剣豪二刀流の清水一学義久・小林平八郎央通ら17名が討たれ、23名の負傷者を出した。この「元禄赤穂事件」で赤穂浪士は預け先の大名屋敷で切腹、遺子は出家者以外流罪、吉良側は義周に信濃国高島へ配流処分が下され、一様の終結を迎えた。1705年陣屋は津田正房が3000石で入り、正明－正春－正安－1795年正良－1837年正応－嘉永年間〔1848～1854年〕正信－1861年桂次郎と、明治まで存続した。現在は畑地、住宅に変わり、陣屋の椿、模擬門が在る。

【所感】県道42号線寺嶋信号を北へ進み、2つ目の辻を左へ曲がります。150m程進むと、アパートの隣りの狭い敷地に岡山陣屋跡の門、椿が在ります。陣屋跡から北700mの県道42号線沿いに「黄金堤」〔字岡山大字下り松〕が在ります。忠臣蔵の悪役で知られる「吉良上野介義央」が築いたものです。「鎧ヶ淵」と呼ばれる沼地の洪水を防ぐ為、長さ180mの堤を築き、村を水害から救いました。義央の働きにより、田には稲穂が豊かに実るようになり、いつしか「黄金堤」と呼ばれるようになったそうです。現在も高さ5m程の堤、はL字形にしっかり残り、桜の木が植えられています。城好きには「土塁」のように見えて感動します。また、この地は「鎧ヶ淵古戦場」でもあります。1561年松平元康〔家康〕の「東条城攻め」の際、深溝松平好景が吉良義昭軍に惨敗し、沼から武具や鎧が引き上げられたことから、「鎧ヶ淵」と呼ばれるようになったそうです。駐車場、トイレ、歴史看板も在りますので、セットでどうぞ!清水一学〔1678～1703年〕の生誕地碑は円融寺の東方200m程の県道318号線沿いに立っています。その手前には尾張藩士で天下第一の弓術家星野勘左衛門〔1642～1696年〕の生誕地碑も在り、生きた時代が重なる剣の達人と弓の名手が隣り同士というのも驚きです。「愛知の城」による



黄金堤